

Rosario Quarterly Information



広報 ロザリオ

社会福祉法人

ロザリオの聖母会

千葉県旭市野中4017

Tel (0479) 60-0600

ホームページアドレス

<http://www.rosario.jp>

Eメールアドレス

honbu@rosario.jp



第21回福祉作文コンクール入賞者のみなさん（平成24年12月7日撮影）

第22回（平成25年度）ロザリオ作文コンクール

福祉作文全体評

【審査員】

鏑木 正（元中学校長・指導室長）

真久 孝昭（元中学校長・指導主事）

松井 安俊（元小学校長・指導主事）

千葉県内で最も大きな福祉施設「ロザリオの聖母会」では、これからの社会の担い手である小中学校児童生徒の皆さんに、ぜひ福祉を考える機会を持っていただき、福祉の持つ役割を理解していただきたいと願って、福祉作文を募集してきました。

今年度も小学校二十四校「銚子四、旭十五、匝瑳四・香取一」九十三点、中学校十校「銚子三、旭四、匝瑳二、香取一」六十九点の応募をいただきました。

応募いただきました関係の学校の先生方、父兄の皆様にご礼を申し上げます。

作品を拜見して次のような印象を持ちました。

○一応、一席二席等の順序をつけました。福祉に対して自らのくらしい関わっているかを見たのですが、今年ほどの作品もすばらしく、甲乙つけ難いものばかりの作品でした。

○福祉の重要性についてすべての児童生徒の皆さんが十分理解している作品が多かったこと。

○自分は障害も無いし、困っていないので、関係ないという傍観的な見方、考え方をもった作品がほとんど無かったこと。

○障害のある人、高齢者の人、すべての人々がしあわせに過ごせるような社会でありたいという願いが強く書かれている作品が多かったこと。

○自分の家、親戚の家など的高齢者「おじいさん、おばあさん」のお世話の体験を書いた作品が従来より多くなったこと。

○福祉施設にボランティアとして訪れ、さまざまな介護体験をして、施設の役割を理解した作品

が多かったこと。

○両親が福祉施設について理解を保持しているために、その家の児童生徒が福祉への関心が高いと思われる作品があったこと。

これからの社会において福祉は避けて通れません。人権尊重、助け合い、協力などの指導について、学校の先生方、父兄の皆様の一層の御理解と御協力をお願い申し上げます。

海匝香取にはたくさん小学校の中学校があります。今年度は応募が昨年度より六校多く、作品も十点多くなりました。来年度はいっそうの応募をお願いいたします。

ロザリオの聖母会は約五百名の職員が、子どもから高齢者の障害を持つ皆様に対して昼夜熱心に治療や介護に取り組んでおります。

施設も旭市と香取市を中心にあり、銚子市、香取市、匝瑳市、旭市ほか各地の皆様が利用しております。小学校、中学校の児童生徒の皆

さんに作文だけでなく、ボランティア体験等も機会があればお勧めください。

4年生選評

○1席 銚子市立双葉小学校

多部田朋弓さん

【私のおじさん】

ダウン症でありながら、明るく生きているのはえらいですね。

○2席 旭市立中央小学校

大島陽乃さん

【ロザリオ聖母会で笑顔のお手伝い】

ロザリオでボランティアのお手伝いをし、オセロの相手をして、きつと、おばさんは喜んででしょう。

○3席 旭市立豊畑小学校

山崎美穂さん

【いっしょに走ろうよ】

霞ヶ浦マラソンで目に障害のある人への思いやりを体験したのは立派です。

5年生選評

○1席 旭市立飯岡小学校

末吉樹さん

【仮設住宅の生活の中で】

津波被害でたいへんでしたね。アドバイザーの人のお手伝いやロザリオの人のお世話で、立ち直りつつあるのはよかったですね。

○2席 旭市立富浦小学校

遠藤夢叶さん

【元気づけて事は幸せ】

障害を持った人に対するあたたかい気持ち、よく書かれています。どうぞこれからも、力になってあげてください。



6年生選評

○2席 旭市立嚶鳴小学校

石井愛莉さん

【みんなが不自由なくくらすために】

社会の便利なところ不便なところを考えたのは立派です。高齢者や障害のある人が気持ち良く生活できるように、不便なところを少なくしていきたいものです。

○3席 旭市立豊畑小学校

浅野愛果さん

【聖母りょう育園での体験】

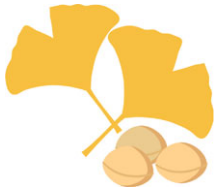
ボランティアして関心しました。障害を持った人が少しでもしあわせになるよう、がんばってください。

○3席 銚子市立双葉小学校

三村真秀朗さん

【口と足で描く絵】

口と足で描いた絵を見て感動し、精神力の強さを知ったのは良かったですね。



○1席 匝瑳市立椿海小学校

戸村悠斗さん

【お母さんの仕事】

お母さんのしているデイサービスの仕事を体験して、お年寄りの大変さが分かり、支えが必要だということを知りました。また、職員の方も大変だがそれ以上にやりがいや喜びを感じていることに共感しています。この仕事のすばらしさが分かり、一生懸命頑張っている母親を心から尊敬している、と素直に表現されていて心を打たれました。

○2席 旭市立琴田小学校

古山あみさん

【笑顔の大切さを知って】

父親の働いている聖家族作業所での体験活動の様子や一日の仕事の説明がとても具体的です。大変でも、笑顔で優しく接することの大切さも学びました。優しい看護

師さんをめざそうと思っています。頑張ってください。

○2席 旭市立嚶鳴小学校

片山真由美さん

【皆が喜ぶことや、皆で喜ぶことです】

都会では、田舎と比べて、お年寄りや障害者が暮らしやすいように、設備が行き届いていることに驚きました。同時に、障害者などに対する気づかいや、それを行動に表わすことも大切だ、ということにも気づきました。皆が暮らしやすい世の中をつくるためにどうしたらよいか、を訴えていて立派です。

○3席 匝瑳市立椿海小学校

菊間紗綾さん

【ヘルパーの仕事】

ヘルパーの仕事をしていたおばあちゃんから聞いた仕事の様子が具体的に説明されています。仕事の大変さが分かった上に、大切なことは相手の気持ちになって理解することや、一人一人がヘルパーに頼らないで、健康な生活ができ

るよう努力することだ、と自分なりの考えを述べていて立派です。

○3席 旭市立萬歳小学校

小野慎之輔さん

【おたすけ人】

お母さんの働いているスーパーで、お年寄りの荷物を車まで運んだりするのを手伝った体験談ですが、その観察や話の聞き取りが鋭くて感心しました。自分の考えをしっかりと持っていて、「福祉ってお金ではない」と述べているところが印象的です。



中学1年生選評

○1席 銚子市立第六中学校

一原彩花さん

【老人ホームで学んだこと】

老人ホームでの職場体験の様子が、生きた表現されています。介護の難しさ、大変さが分かりました。また、夢を持ち続けることの大切さや、老人ホームも仲間と一緒に励まし合い支え合うクラスと同じだ、など沢山のことを学びました。何事にも一生懸命取り組みようと決意して立派です。

○2席 香取市佐原第五中学校

小山田智輝さん

【こんな出会いがなかったら】

介護施設のお年寄りと交流することを、初め嫌がっていたが、一緒に遊んだり、ゲームをしたり、昼食を食べたりして、お年寄りの笑顔や優しさに接する中で心がほぐれていきました。リハビリを手

伝えるようになったのも、お年寄りとのすばらしい出会いがあったからですね。

○2席 旭市立第一中学校

大椋涼帆さん

【在宅介護体験で学んだこと】

祖母がしている在宅老人介護の仕事を手伝い、その様子や気持ちの変化をくわしく描いています。お婆さんとの交流を通して、知らない人でも心を開いて話したり、一緒に時を過ごせば絆が生まれるし、笑顔が人を幸せにしてくれるということを学ぶことができました。

○3席 旭市立第二中学校

石井さくらさん

【一人一人のいい所】

福祉講演会での模擬体験から、自閉症の大変さを知りました。人間理解が深まり、障害をもついても、もっていなくても、同じ人間として相手のいい所を見つけて尊敬し合うことの大切さに気づいたのは、えらいですね。

○3席 銚子市立第六中学校

飯岡美夕さん

【得た宝物】

大好きなひいおばあちゃんの入院や亡くなった時の様子や気持ちがあくわしく表現されています。また、老人ホームを訪れて、ひいおばあちゃんのお年寄りの方などの、ホームの温もりで得たものだったとわかったのは、良かったですね。

○3席 旭市立海上中学校

岩井榛花さん

【自分の体験】

生まれた時の病気で、ずっと車いす生活をしていても、明るいい気持ちで、「人生楽しく」とつらさを乗り越え、元気いっぱい暮らしていると感じました。障害者が暮らしやすい街になってほしいと願っています。実現させたいですね。

中学2年生選評

○1席 旭市立第一中学校

小沼佳永さん

【人が支え合うことの大切さ】

三日間にわたる病院での職業体験学習が具体的に描かれています。この体験を通して、「笑顔」「チームワーク」「患者さんと同じ気持ちになる」という、支え合うことの大切さを学んでいます。それを自宅での介護に生かそうとしています。

○2席 銚子市立第六中学校

柳堀颯人さん

【身の周りの思いやり】

高齢者や体の不自由な方にとっての身の周りの施設・設備や接し方をよく観察しています。そして、高齢者や体の不自由な方の側に立つた施設・設備の必要性や優しく接することの大切さを強調しています。



○3席 銚子市立第二中学校

伊東希佳さん

【頑張屋の曾祖母に教わったこと】

二度も病気になった曾祖母が、懸命にリハビリをして回復した様子が詳しく描かれています。曾祖母の回復には多くの人々の支えがあったこと、あきらめないで努力することの大切さを学んでいます。

○3席 銚子市立第二中学校

古渡敢太さん

【釣り人と環境について】

趣味の釣りを通して、自ら釣り場の環境改善に取り組んだ実践が書かれています。その結果、自分が先頭に立って動き、何かをしなければならぬことに気づきました。

○3席 旭市立第二中学校

伊藤大地さん

【祖父の介護】

祖父の介護の様子が詳しく描かれています。そのことを通して、介護は家族だけではできないこと、病院や介護サービスのありがたさ

を述べています。そして、人間は

いつ病気になるかわからないので、一日一日を大切に生きていこうと考えています。

中学3年生選評

○1席 銚子市立第六中学校

宮内夏海さん

【初めての介護から】

「書き出し」から文にひきこまれ、一気に読み上げました。さらにと光る表現もあります。突然やってきた祖母の介護を、介護老人保健施設での職場体験学習の成果を生かして実践しています。

○2席 旭市立第一中学校

寺田百花さん

【考えさせられた一つの出来事】

目の前で人が倒れた。とっさに熱中症にかかったのだと思ったが、突然のことではう然として何もできない自分がいました。その経験

から、様々な状況に対応できる知識や行動力を身につけようと決意

しています。状況描写も優れています。

○2席 銚子市立第一中学校

高野紗良さん

【みんなが笑顔で暮らせるために】

バリアフリーチェック隊に参加し、実際に車椅子に乗ったり、体におもりを付けたりして歩いた体験を述べています。その体験から、皆が笑顔で暮らせる町づくりのための具体的な改善点を指摘しています。

○3席 旭市立第二中学校

野中真優さん

【祖母と認知症】

認知症になって、特別養護老人ホームに入所している曾祖母との交流が描かれています。認知症についての知識を学習し、曾祖母への接し方を改善しようとしています。

○3席 旭市立第二中学校

佐伯飛咲さん

【自分ができること】

老人ホームでのボランティア活動を通して、笑顔のすばらしさを発見しています。同時に、人を笑顔にする難しさも実感しています。この体験から、もつと人の役に立ちたいと考えています。

○3席 匝瑳市立八日市場第一中学校

菊間彩花さん

【私達の身の周りの人々】

身の周りの人々、特に障害をもつ妹について詳しく述べています。妹は多くの人々の支えによって、徐々に良い方向へむかっています。そのことを通して、福祉の大切さを訴えています。



◆優秀作品紹介◆

私のおじさん

銚子市立双葉小学校

四年 多部田 朋弓

私のジジの弟はダウン症候群という病気を持って産まれてきました。

ダウン症候群とは二十二対の染色体のうち二十一番目以外の染色体は全て正常な2本組ですが、二十一番目の染色体だけは、三本組になっており先天性の疾患群で治りよう法はないです。ダウン症候群はダウン症ともいいいます。

私のおじさんはヒロシ君と呼ばれています。なので私もヒロシ君と呼んでいます。ヒロシ君はママの実家の東京でジジとババと一緒にくらしています。ママは、産まれた時から結婚するまで一緒に住ん

でました。そして、ママが赤ちゃんの時はオムツまでとりかえてくれた事もあるそうです。

私がヒロシ君と話しをするのは、ママの実家に行った時ぐらいなので、何となくはずかしくて何と話しかければ良いのかわからない時もあります。でも思いきって話しかけてみると、一生けんめい話してくれるのですが、私は何と話しているのか聞きとれない事もあります。ですが一緒に住んでいるジジやババは、何でも聞きとれることができます。すごいなと思います。

ヒロシ君はママが小さい時からずっと家族全員のおせんたくをたむお手伝いをしています。

私が東京へ行った時もひろし君が私のせんたくをたたんでくれます一枚一枚ていねいにしわをのばしてくるのでアイロンをかけた様にきれいです。

ママにちは

ヒロシ君は月よう日から金曜日まで作業所に通っています。そこには、先生がいて、他の障害を持った人と一緒に、ヒロシ君も、働いているそうです。その作業所へは、一人でバス停まで行き、バスに乗り、バスをおりたらまた歩いて行きます。

ヒロシ君は自宅から作業所まで行く途中、たくさんの人に「おはよう。」「こんにちは。」と、あいさつします。だから、最初は知らなかった人でも毎日あいさつしているうちに、たくさんの人達がヒロシ君を知っています。私はずかしくて自分の方からあいさつするのが苦手です。だから、たくさんの人達に話しかけられて、ヒロシ君は、すごいなと思います。障害があるとかないとか関係なくあいさつする。という事はとても大切な事だと思えます。これからは私もせつきよく的にあいさつしていき、たくさん友達を作りたいです。

仮設住宅の生活の中で

旭市立飯岡小学校

五年 末吉 樹

ぼくの家は、東日本大震災の津波で流されました。

今は飯岡の仮設住宅で家族5人で生活しています。

くらしはじめたころは、部屋はせまいしあついしとなりの話し声物音が気になってなれるまで大変でした。

そんなころ

「こんにちは」

と訪問してくれる人達がいきました。いったいどうゆう人達なのかなとずっと不思議に思っていました。

母に聞いてみると

生活支えんアドバイザーと言ってロザリオのせいぼかいの人達が仮設住宅にくらす人達を見守ってくれているとおしえてくれました。ふつうに生活するのにどうして、生活支えんアドバイザーが必要なのかわからなかったのでまた母に

聞いてみました。

地しんと津波があつて、おそろしい体験をしたから思い出して不安になり夜、眠れなかつたり体のこと、家が流されてこれからどうしたらいいのか相談に乗ってくれたらすると教えてくれました。そして冷ぞう庫の横の所にみどり色の紙が張ってありました。読んでみると

「千葉県生活支えんアドバイザー」事業が始まりました。

と書いてあつて健康や生活、かいご、たくさんの心配なことを相談に乗ってくれる内容でした。

母は体のことで心配なことがあつたのでアドバイザーの人に話を聞いてもらつて、すごく助かつたと言つていました。

ぼくは、集会所へ行ってアドバイザーの人達にトランプをかりたりパズルをやつたり、本を読みいたりアドバイザーの人にやさしくしてもらつて、うれしかつたです。

秋には

「ロザリオまつり」

と、言うのがあつて仮設から送迎のバスが出ました。

ロザリオのしせつは大きくて、広くて、色々の建物があつて、おどろきました。

こんなにたくさんの建物があるつて事は、それだけ、ロザリオのしせつを利用する人達がいるんだと思ひました。

と同時に、アドバイザーで来ている人達が何人もいました。

こんなにたくさんの人達が、仮設住宅に、くらししているぼく達を見守つてくれていると思うとうれしくなりました。

ぼくはまだ福祉やボランティアとか良くわかりませんが、少しづつ、体の不自由な人、お年よりとか、弱いたちばの人のために勉強して

いけたらいいと思ひます。

そして、母が小さいころからぼく達兄弟に言つている「思いやりのあるやさしい人になりましょう」に一步一步近づけたらいいと思ひます。

お母さんの仕事

匝瑳市立椿海小学校

六年 戸村 悠斗

ぼくのお母さんは、デイサービスで働いています。ぼくはこの夏休みに、お母さんの職場で、仕事の半日体験をしました。お母さんが、どのような仕事をしているのか、知れたかつたからです。

ぼくは、今まで大きな老人ホームやしせつに行つたことがなかつたけど、今回の体験でデイサービスの仕事の内容を知ることができ、よかつたと思ひます。

デイサービスには、いろいろな人が来ます。毎日毎日、来る人がちがいます。曜日によつても利用する人がちがいます。その中には、自分で歩ける人もいます。つえをついて歩いている人もいます。また、歩行器を使って歩く人や車いすを使わなければ、移動できない人もいます。働いている人は、その人達が気持ちよくすごせるよう

に、一人一人と笑顔で接してました。

デイサービスの仕事は、朝、その日の利用者さんをむかえに行くことから始まります。そして、しせつに着いたら、血圧や熱を計つて、体調が悪くなければおふろに入つたり、他の利用者さんとお話をしたりします。

家でおふろに入れない人は、デイサービスを利用して入ります。

デイサービスでおふろに入る人は、とても多いです。ぼくの行つたしせつは、民家型なので、普通の家の造りになっています。なので、おふろは一人ずつ入っていました。

自分達の家とちがつて、大きくて、入りやすくする工夫もありました。おふろのいすは、上下や左右に動くようになつていて、その人が入りやすいように調整できます。また、いすのまま入れるので、安定して、すごいと思ひました。

ほかに、ろうかやトイレ、げん関など、いろいろなところに手すりがあり、安全面に気をつけていることがわかりました。また、

民家型なので、バリアフリーになつていないところもありますが、そこは、職員の人たちが支えたりしていました。

利用者さんは、体操やレクをして、体をたくさん動かしていました。それぞれの人が合った無理のない内容です。例えば、お手玉やゴムやボールなどの道具を使って、楽しんでいました。初めは、このレクは、楽しむためだけのものだと思いますが、手の筋力をあげるためだったり、今ある筋力のない持だったり、足の筋力アップだったりすることがわかり、感心しました。ぼくも、利用者さんの間に入って、一緒にレクをしました。いろいろなお話をしながら、楽しむことができました。

他にもたくさんレクがあります。指先を使った創作活動では、お年よりが作ったたくさん作品が置いてありました。とても根気がいる作業もあるようですが、一生けん命作った作品は、すばらしいものばかりでした。

それからは、ぼくは食事作りの

お手伝いもしました。利用者さんが楽しみにしている食事は職員の方が作っています。でも、ただ作るのではなく、お年よりでも食べやすいようにやわらかくしたり、とろみをつけたりしていることがわかりました。利用者さんのために、いろいろな心づかいをしていて、すごいなと思いました。

ぼくは、この半日の体験を通じて、お年よりの大変さを感じることもできました。ぼく達が普通に行っていることも、お年よりには、とても大変で、一人ではできないこともあるのです。だから、他の人の手助けや支えが必要で、それがとても大切だということ学びました。

また、実際に働いている人のお話を聞くと、大変でつらいという言葉はありませんでした。利用者さんと話したり、手助けしたりしていると、笑顔でいられるそうです。ぼくも、利用者さんからのありがとうの言葉が、とてもうれしく感じました。きっと、大変なこともあると思いますが、その大変

さ以上に、やりがいや喜びを感じることができのだと思います。人が人を支える、ぼくのお母さんの仕事はとてもすばらしいと思います。いろいろなことをしなければいけないけれど、ぼくはこの仕事を一生けん命がんばっているお母さんを心から尊敬します。

老人ホームで学んだこと

銚子市立第六中学校

一年 一原 彩花

私は六年生のとき、職場体験で老人ホームへ行きました。老人ホームに行ってみると、施設の利用者がたくさんいらっしやあって、とても驚きました。また、うまくできるだろうかと、不安な気持ちも湧いてきて、胸がいっぱいになってしまいました。

特別養護老人ホームなので、一つ一つの部屋の工夫や、特別な仕組みのトイレとお風呂車いすでも移動しやすい廊下など、たくさん

の配慮がされていたことが印象的でした。一人一人、寝るベッドの形が異なることにも驚きました。自動で起き上がるベッド、大きいベッド、小さいベッドと、利用者の状況に合わせているようでした。

さらに私が驚いたことは、個室がなるべく家庭そのものに近い状態にしてあったことです。それには理由があったのです。老人ホームの利用者の中には、ホームでずっと暮らしていかなければならない事情の方もいらっしやいます。そんな方の部屋には、家庭で使っていたいすや机、たんすやふとん、クッションなどが置いてありました。それは、老人ホームにずっといなければならない方に、安心して暮らしてもらうための、温かい心遣いでした。部屋のつくりは一緒なのに、置いてあるものが違うだけで、このように違うのは、それぞれの個性が表れているからなのだと思います。そのような施設の工夫には感動しました。

そしていよいよ仕事が始まりました。内容は、おそらくスタッフ

の人にとっては簡単なものだったのだと思いますが、私にとっては何もかもが初めてで、ドキドキしました。お年寄りの方と一緒に散歩をしたり、お茶を入れてあげたりしました。その中で、お年寄りの方と話す機会がたくさんありました。どんな話をしたらいいのかとまどつてしまい、始めはうまく言葉が出てきませんでした。しかしこれは、何よりも私が望んでいたことです。予想通りにはいかなくて困ってしまい、お年寄りの方との接し方のこつを職員の方に聞いてみました。どうやったら、お年寄りの方と上手に話すことができるのかとたずねると、

「気軽に話しかけてみるといいよ。」と言われたので、その通りに話してみました。すると、最初は緊張したけれど、だんだん慣れて自然と会話ができるようになりました。私は、とてもうれしくて、後の方には会話が止まらなくなるほど話しました。お年寄りの方も、話を一生懸命聞いてくださったり、笑顔で迎えてくれたり、慣れない仕

事にとまどっている私に優しくしてくれたりしたことも、うれしかったです。

お年寄りの方の介護は難しく、時にはうれしく、時には悲しいこともあります。見ていても、いつも忙しそうで、とても大変そうでした。それでも、私は老人ホームで職場体験ができて本当によかったと思っています。それまで、お年寄りの方と話をすることが難しかった私に、たくさんのお話の時間をくれたり、仕事を手伝わせてくださったりして、勉強になることがいっぱいありました。老人ホームでの仕事は、お年寄りの方とたくさんコミュニケーションをとって、相手のことを思いやり、支えていこうとすることが大切なのだということがわかりました。

私には、今でも心に残っているスタッフの方の言葉があります。「夢は、たくさんあった方がいい。夢が一つとは限らない。その夢が叶う人もいれば違う人もいる。りんごを正面から見たとき、赤いと思うのが一般的ですが、まわして

いろいろな角度から見れば、大きい、丸いなどたくさん答えは出ます。だから、夢はあきらめないでほしい。」

この言葉に私は胸を打たれました。私は自分の夢をしっかり持つていこうと思いました。

もう一つ、思ったことがあります。それは、老人ホームとは、学校のクラスと似ているのではないかとということです。老人ホームでは持病があってもめげずにがんばっている人や、体の自由があまりきかない人などが一緒に暮らしています。それでも、暮らしている私たちは、互いに楽しく話をしたり、一緒に活動をしたりして過ごしています。毎日を一生懸命に生きていこうとしていることがわかりました。そして、スタッフの方も一緒に生活して、利用者の方を支援して生活しています。この姿は、クラスで、様々な個性のある仲間が集まって、協力するのと一緒なのだと思います。人はそれぞれが得意なこと苦手なこともあります。一緒に励まし合い、支え合っ

て暮らしていくことはとてもいいと思います。

老人ホームでの職場体験は、たくさんのお話を私に教えてくれました。ここで学んだことを忘れず、何事にも一生懸命に取り組み、思いやりの心を忘れないようにしたいと思います。

人が支え合うことの大切さ

旭市立第一中学校

二年 小沼 佳永

私の曾祖母は脳梗塞で倒れてから、寝たきりの生活になりました。ケアマネージャーさんの定期的な訪問と計画に沿って、週に一回入浴サービスを受けたり理学療法士さんが来たりとお世話してくれている姿を見て、将来、人の役に立てる仕事につきたいと思いました。

今年の夏、職業体験学習があり、国保旭中央病院で体験させてもらうことができました。

一日目は、脳梗塞で体が麻痺し

てしまっている人や日常生活に手助けが必要な方が五十名程入所している東総園という施設で体験しました。そこでは、両下肢がない方が居たり、上半身だけの力を利用して生活している人がいて、私は、あまりにも衝撃的なことで顔がひきつってしまいました。

けれど、両下肢がない方は、私達の年代に負けないくらいの笑顔でビニール袋をまとめる仕事をしていました。職員の方は、笑顔で話しかけていて、話しかけられたお年よりの方はとても楽しそうでした。お年よりの方に元気を与えているように見えました。

上半身の力を利用している方は、趣味である、絵と書道をやっている、寝たままの状態で書いているのに、すごく上手でとても心に残る作品ばかりでした。あの方にとっては、生きていく上での力の源なのだと思いました。

そして、約三十台の車イスの掃除を体験しました。これは、お年よりの方が自分で掃除できない部分を代わりに掃除するという意味

で行いました。終わった後には必ず、

「ありがとうございます。助かります。」と笑顔で声をかけられると、達成感はもちろん、もつときれいにし、てあげたいと何度も思うことができました。車イスを掃除してきれいにしてもらう方もしてあげる側も最後は必ず笑顔で終わると思えました。

二日目は、病棟に行き、普段患者さんに行っている看護を間近で見せてもらいました。ここでは、「チームワーク」の大切さを教えてもらいました。寝たきりの患者さんをお風呂に入れるため、ベッドを移動する時は、職員一人でききない場合、

「四人、お手伝いお願いします。」と声をかけ、周りの人は急いでかけつけて、

「いちにーのさん」や「せーの」と言ったかけ声とともに患者さんをお風呂の方へと移動してい



ました。

この時、遅すぎず早すぎないといったペースで患者さんをお風呂に入浴させていました。患者さんほとても気持ちよさそうな顔で入浴していました。

三日目は、運動機能が低下してしまっている方のリハビリを一緒に体験することができました。脳梗塞などの病気で半身麻痺となり、思うような動きができなかったり、手術した後、手術前と同じように歩くことができなくなってしまったりした方のリハビリを職員の方々に説明してもらいながらやりました。やはり、どちらの患者さんも自分が思っているような行動ができなくてとても辛そうでした。けれど、決して弱音は吐かず前向きにリハビリを行っていました。そして、ここでは患者さんと同じペースで歩くということが大変だとわかりました。普段の自分のペースとは全く違う速さで歩いていたので、ついつい先に行きそうになっ

てしまったりして、戸惑いました。しかし、職員の方は患者さんと上手くペースを合わせて歩いていました。患者さんの気持ちになっ

ていきました。この三日間の体験を通して、三つの大切なことを学びました。一つは、「笑顔」は患者さんを安心させ、コミュニケーションの手段の一つであること。二つ目は、「チームワーク」の大切さ。三つ目は、「同じ気持ちになる」ということの大切さです。患者さんは、私達が当たり前のように出来ている事が難しい状態だけど、前向きに楽しく生活しているということを私に教えてくれました。私は、この体験を多くの人に知ってもらいたいと思いました。

曾祖母の介護にもたくさんの方が協力し合って行っていることを改めてふり返ることができました。この体験で知ったことを意識して、自宅介護に参加できるといいと思いました。

私も、介護や看護のチームの一員になれるよう夢に向かって頑張っていきたいです。

初めての介護から

銚子市立第六中学校

三年 宮内 夏海

「ばあちゃんが倒れちゃったから、お手伝いに来てくれる?」

という内容の電話をじいちゃんからうけたとき、私は混乱した。とにかく驚いて何度も聞き返した。私の初めての介護体験は、突然やってきたのだった。

私のばあちゃんは、腰が悪い。私がまだ幼い頃は、よく犬の散歩やキノコ狩りに行く元気なばあちゃんだったけど、私の成長と共にその姿は薄れていった。そんな中、いきなりヘルプの声があがったから、本当に驚いた。

二年生の夏休み。私は職場体験学習で老健（介護老人保健施設）へ行った。じいちゃんが老健の送迎をしているので、身近にある仕事だと思っ、そこを選んだ。

「お年寄りのお世話か……。」とドキドキしながら体験は始まっ

た。しかし、仕事の内容は昼食や飲み物の配膳ばかりで、車イスを押ししたり、ベッドから起こしてあげたりということは出来なかった。想像していたこととは違ったけれど、「そんなもんなのかな。」と思

い、三日間の体験は終了した。このことを思い出した私は、「今回は頑張るぞ!」と意気込んで祖母宅へ向かった。

じいちゃんとばあちゃんは二人暮らしなので、泊まりがけでお手伝いすることになった。私が家に着いたとき、ばあちゃんは凄くぐったりとしていて、私が

「大丈夫?」
と聞いても
「大丈夫だよ……。」

と、今にも消えてしまいそうな笑顔が浮かべるだけだった。胸がしめつけられた。ばあちゃんをよく私とお兄ちゃんの面倒を見てくれたので、今までの苦労が蓄積されてしまっていたのだろうと思う。

お手伝い初日。正直、何をしたら良いのかわからず、ときばきと

動くじいちゃんの姿を見ていることしかできなかった。老健でのあの日の様に。さすがにこのままじゃいけないと思っただけれど、やはり声をかけるぐらいしか出来なくて、自分の無力さを思い知った。

次の日、じいちゃんが仕事で家をあけることになった。一人は不安で心細かったが、あの三日間で見て覚えたことを生かすチャンスだと思っ。まずは、布団から起こしてあげる。これにはコツがあつて、お互い肘のあたりを掴むと、力が入って起こしやすい。腰に負担がかからないよう、クッションを使うのもひとつのポイントである。これらは全て、職場体験で目で覚えてきた。あの三日間、行動はできなかったが、職員の動きはちゃんと覚えてきたのだ。この日、ようやく「役に立てた!」と思うことができた。

「ありがとう。若い人がいて助かったよ。」

「おかげで少し楽になったよ。ありがとう。」

お手伝い最終日に二人にそう言わ

れて、笑顔を見て、すごく嬉しくなった。

人の役に立つというのは、とても素晴らしいことである。今はばあちゃんも元気だし、「ありがとう。」の一言を言われるだけで、嬉しく

てたまらなくなる。突然の体験だったから、戸惑うことが多かったし、「私が来なくても良かったのでは……。」と思うことも時折あつた。

しかし、二人の笑顔を見た途端に、「ああ、来て良かった。役に立つことができて良かった。」と思えた。

次にいつこんな機会がやってくるかわからない。しかし、社会が高齢化が進み、近い将来、成人一人が高齢者を介護する時代がやってくる。私を含め、次の時代を担う若者は、高齢者介護の知識がなければいけなくなるのかもしれない。社会保障が整備され、高齢化社会が到来しても、みんなが慌てることのないように願っているが、同時に私たちもしっかりと準備しておかなければならない。みんなが笑顔で暮らせるように。

第22回福祉作文コンクール入賞者

小学4年生の部

- 1席 銚子市立双葉小学校 多部田 朋弓
- 2席 旭市立中央小学校 大島 陽乃
- 3席 旭市立豊畑小学校 山崎 美穂

小学6年生の部

- 1席 匝瑳市立椿海小学校 戸村 悠斗
- 2席 旭市立琴田小学校 古山 あみ
- 3席 旭市立豊畑小学校 山崎 美穂

小学5年生の部

- 1席 旭市立飯岡小学校 末吉 樹
- 2席 旭市立富浦小学校 遠藤 夢叶
- 2席 旭市立豊畑小学校 石井 愛莉
- 3席 旭市立豊畑小学校 浅野 愛果
- 3席 銚子市立双葉小学校 三村 真秀朗

中学1年生の部

- 1席 銚子市立第六中学校 一原 彩花
- 2席 香取市佐原第五中学校 小山田 智輝
- 2席 旭市立第一中学校 大椋 涼帆

中学2年生の部

- 3席 旭市立第二中学校 石井 さくら
- 3席 銚子市立第六中学校 飯岡 美夕
- 3席 旭市立海上中学校 岩井 榛花

中学3年生の部

- 1席 旭市立第一中学校 小沼 佳永
- 2席 銚子市立第六中学校 柳堀 颯人
- 2席 銚子市立第二中学校 伊東 希佳
- 3席 銚子市立第二中学校 古渡 敢太
- 3席 銚子市立第二中学校 伊藤 大地

中学3年生の部

- 1席 銚子市立第六中学校 宮内 夏海
- 2席 旭市立第一中学校 寺田 百花
- 2席 銚子市立第一中学校 高野 紗良
- 3席 旭市立第二中学校 野中 真優
- 3席 旭市立第二中学校 佐伯 飛咲
- 3席 匝瑳市立八日市場第一中学校 菊間 彩花



医療 療養所
 海上療養所
 就労継続支援B型事業所
 ワークセンター
 医療型障害児入所施設・療養介護事業所
 聖母療養園
 生活介護・児童発達支援・放課後等デイサービス(重点)
 聖母通園センター
 児童発達支援・放課後等デイサービス事業所
 ふたば保育園
 児童発達支援事業
 旭市子ども発達センター
 障害者支援施設
 聖マリアア
 障害者支援施設
 聖家族
 障がい者の就労促進事業所
 みんなの家
 生活介護事業所
 聖家族作業所
 共同生活介護・共同生活援助事業所
 ナザレの家あさひ
 高齢者支援事業
 ロザリオ高齢者支援センター
 ロザリオ訪問介護事業所
 通所介護・介護予防通所事業所
 デイサービスセンター・ローザ
 障害者支援施設
 佐原聖家族園
 生活介護・児童発達支援・放課後等デイサービス(重点)
 聖ヨセフつどいの家
 共同生活介護・共同生活援助事業所
 ナザレの家かとり
 地域生活支援センター
 友の家の
 中核地域生活支援センター
 海匠ネットワーク
 障害者就業・生活支援センター
 東総就業センター
 療育相談事業
 ロザリオ発達支援センター
 香取市相談支援事業
 香取障害者支援センター
 障害者就業・生活支援センター
 香取就業センター